

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0873900526
法人名	株式会社 いっしん
事業所名	グループホーム いっしん館霞ヶ浦
所在地 (電話番号)	茨城県かすみがうら市栄倉5200-38 (電話)029-898-3649

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年7月20日	評価確定日	平成20年1月8日

## 【情報提供票より】(平成19年6月27日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤 22人, 非常勤 1人, 常勤換算 21.5人	

## (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	2階 建ての 1階 ~ 2階部分	と 平屋 1階

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	20,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有(但し入居2年目から)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

## (4)利用者の概要

利用者人数	25 名	男性	9 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	9 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	69 歳	最高	92 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	しほう医院 ・ 長谷川歯科医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街から少し離れた、栗畑が広がる自然豊かな場所に位置している。利用者は、個人のペースや要望を大切にケア提供を受けながら、穏やかな生活を送っている。職員は明るく、笑顔を絶やさない事を念頭に置きながらのケア提供を心掛け、日々の生活を支えている。今後も更に、地域や家族との連携を図りながらホームの運営に活かしていく事が期待できるホームである。
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題として挙げられた、2階居室の安全確保では、窓の外枠に転落防止の手すりを設置している。また、買い物などの外出支援への取り組みや、アセスメントとしてセンター方式を導入し、ケアプラン作成を行なう取り組みを行なっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットごとに職員全員で分担し、自己評価を記入している。その後、リーダーがまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	民生委員・地区長・家族・利用者が参加し、ホームの概要や外部評価、今度行なわれる夏祭りについてなどを報告している。地域住民へのホーム便りなどの配布により、より理解を求めていく事が求められた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム独自のアンケートを用い意見を求めたり、ホーム以外の苦情受付の案内などを行い、家族のホーム運営への参加を促している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の小学生の訪問や運動会、収穫祭への参加などを行なっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念の中に地域密着型としての内容は特に掲げていないが、地域に根ざしていくために地域との交流の機会を設けている。		現在検討している、地域へ向けた施設便りなどにより、ホームの役割等を広める活動に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が非言語的コミュニケーションも含め、明るく元気にいつも笑顔を絶やさずにいることを心掛けてケア提供を行なっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームでのイベントに地域の方を招待したり、小学校の行事に参加している。自治会への入会はしておらず、地区長との連携が図れていない。	○	今後は自治会への入会も含め、地域との更なる連携をホームから働きかけていく事が望まれる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で取り組む事により、現在のケア内容の振り返りができ、改めて考える場となった。前回の評価を基に、改善にも取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6月に一回目の推進会議を開催し、次回の開催予定や内容の検討もされている。地域との交流を深めていく事等、今後の課題としている。		

茨城県 グループホームいっしん館霞ヶ浦

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>一ヶ月に一度の介護相談員の受け入れを行い、その機会にホームでの困りごとなどの相談を行なっている。相談員を通して市との連携を図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ホーム便り以外にも面会時や電話でのやり取りなど、こまめに利用者の状況報告を行なっている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時には、職員とゆっくり話が出来るように環境設定をしている。また、運営推進会議の場を家族の話し合いの場としていく予定である。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の移動後にも交流が図れるような取り組みをしている。新しい職員は、コミュニケーションを密にとって行く事で利用者との関係作りを図っている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修は充実しており、外部の研修にも参加が可能な状況にある。新人職員に対しての教育にも全職員が協力して行なっている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内での交流は盛んに行なわれている。また、県のグループホーム協議会に入会しており、他の同業者との交流も、研修などの機会に行なっている。</p>		<p>今後も機会を見ての交流や、他のホームの見学や意見交換を積極的に行なっていく事に期待する。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用は行なっていないが、見学や訪問などを通して利用へと繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活のあらゆる場面で、利用者に教えてもらう機会を作る事を心掛け、職員の一方的なケアにならないよう配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	非言語的コミュニケーションも含め、言葉かけを充分に行なう事により、本人の希望や思いを把握し、ケアの実践を行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を用いたアセスメントを各担当スタッフが中心となり記録し、ケアマネージャーが作成している。家族からの意見も取り入れた内容となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1度のケース担当者会議や6ヶ月に1度の計画見直しを行っているが、目標や課題の評価はされていない。	○	ケース記録を介護計画に沿った内容の記述にしていく事や、モニタリング用紙の整備、ケース担当者会議で議題となった内容がプランに反映される事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイの申請を行い受理されているため、今後受け入れを行なう予定がある。また、地域の相談に応じながら他のサービスにも繋げている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で内科医・歯科医の往診があり、急変時にも対応してくれる医療機関を確保している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム全体としてターミナルケアを前提としたケアの提供が行なわれ、看取りの事例もある。		ターミナルの段階に応じたケアマニュアルの作成やケアプランへのターミナルケアの反映などにより全職員が不安なくケア提供が行なえる事に期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関する書式の整備がされている。また、家族と利用者の話し合いを行なうときには、別室を用意して行なっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日をどの様に過ごしたいかの確認を行ない、本人の希望を優先できるよう配慮している。生活歴の把握にも努め、新しい情報は申し送りノートやミーティング時に共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を取り入れながら、季節感のある物を提供している。また、胃ろう適応の利用者に関しても、出来るだけ経口摂取できるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯や入浴頻度は利用者のペースに合わせている。入浴拒否をされる方は清拭などを取り入れている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	男性利用者の中には自ら積極的に役割を持ち、職員の手伝いを楽しみ事としている。また、毎年旅行やお祭りなどの企画がされ、非日常的な楽しみ事の支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・散歩・ドライブなど日常の外出支援に加え、車椅子の方も含めて、外食へも出掛けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠することなくいつでも出入りが出来るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練が実施されている。地域への協力依頼や非常食等の備蓄の整備は行なわれていない。	○	災害時に地域との連携が図れるようなホームからの働きかけや、非難用具や非常食など備蓄の整備が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を栄養士に確認してもらいおおよそのカロリーの把握をしている。水分チェックを行い脱水症状に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳を敷いた空間や、ソファが置かれ、利用者が思い思いに過ごせるように工夫されている。観葉植物も多く置かれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が大切にしてきた品物が置かれ、居心地の良い空間となっている。		